



## 環境に目を向けた日々の暮らしに心がけを。

台風の季節。近年、大雨が増え、全国的にも大きな被害が発生しています。いつ発生するかわからない地震対策のみならず、私たちは気象情報にも注意を向け、おく必要が増えています。

昨年10月、気象庁気象研究所、東京大学大気海洋研究所、国立環境研究所及び海洋研究開発機構の研究チームが文部科学省「統合的気候モデル高度化研究プログラム」の一環として、最新の数値シミュレーションを用いた結果を発表しました。

それによると、平成29年7月九州北部豪雨及び平成30年7月豪雨に相当する大雨の発生確率に地球温暖化がなかったと仮定した場合と比較して、それぞれ約1.5倍および約3.3倍になっていたことが推定されているのです。

### 多摩市気候非常事態宣言から

- 1 地球の温暖化を防ごう
- 2 ごみ・廃プラスチックを減らそう
- 3 自然の恵みを見直そう

この結果からわかることは、「100年に1度」の豪雨が、今後は「30年に1度」到来する時代になっているということです。

待ったなしといわれる温暖化ですが、その実感はなかなか持ちにくく、「私一人くらいが行動しても…」という気持ちになりやすいのも事実です。しかし、一人ひとりの行動の積み重ねが、子どもたちの未来、地球を温暖化から守ることに繋がることがまた事実なのです。

少しずつでもできること。ペットボトルからマイボトルへ。今日、明日のお買い物で少しでも「プラスチック類」を減らしてみませんか？



「私たちの暮らし、すべての活動は健全な地球環境があつてこそ成り立つ」SDGsウエディングケーキモデル

1977年 兵庫県神戸市生まれ/1989年 北諏訪小学校卒/1992年 桐朋女子中学校卒  
1995年 桐朋女子高等学校(普通科)卒/1999年 中央大学法学部政治学科卒  
1999年~2002年 中小企業金融公庫(今の日本政策金融公庫)勤務/2002年4月  
多摩市議会議員補欠選挙当選/2006年 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科  
修了(公共政策学修士)/2017年~2019年 多摩市議会第31代議長  
2021年現在 議員歴6期19年 諏訪2丁目在住

### 市議会レポートほうれんそう

## 岩永ひさかへのご相談は・・・

ご用件と希望する連絡先を留守番電話へ！必ず折り返します。

TEL 042-371-0763 留守番電話専用

#オンラインでの意見交換もできます。ご希望がありましたら、下記アドレスまで。  
→hisaka\_box@yahoo.co.jp

2021年秋 第161号

## 多摩市議会議員

# 岩永ひさかのほうれんそう

所属党派 フェアな市政  
発行者 岩永ひさかと夢・まち会議

ブログ更新中!!  
ご意見も随時  
募集しております!

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>



今年も第3回定例会が終わり、季節はすっかり秋へ。10月になり、緊急事態宣言は解除されても、「解放感はないなあ」と感じる日々です。

市議会の活動も定例会が開催されていない期間には他市への調査、勉強会などへ参加しながら、政策づくりのヒントを得てきましたが、昨年に引き続き、今年も委員会の視察は中止となりました。今はインターネットなどでもある程度の情報収集ができるとはいえ、やはり百聞は一見に如かず。現地足を運ぶことでしか得られない気づきがあることを思うと残念です。

堤未果さんの「デジタル・ファシズム」(NHK出版)を読みました。ますます進んでいくだろうデジタル社会に対する向き合い方、心構えについて改めて考えさせられる一冊でした。デジタル政府では世界でも進んでいるとされているエストニアでは「デジタル技術で集めた詳細な個人情報、政府や企業が自分たちの都合で勝手に使うことができないよう、かなり強力な規制が敷かれている」といいます。今、日本国内で進められているデジタル化の流れを注意深く見ていく必要があります。

新型コロナウイルスへの対策にもまだまだ気を緩めることはできません。ただ、心配や不安の気持ちを大きくしすぎず、心地よい秋風とともに、多摩市内の秋を存分に感じながら、コロナ後の私たちの世界に思いをめぐらせつつ、冬に向きたいなあと思っています。

みなさまの穏やかな日々を心からお祈りしています。

暮らしの中にある疑問、不安、お困り事など、どうぞお気軽にお寄せください。

2021年秋

岩永ひさか



### HISAKA'S Style

- ①公平公正な姿勢
- ②政策づくりが議員の仕事
- ③話し合いが大切



岩永ひさか  
「日々の活動」  
あれこれ気ままに綴ってます。



## 子どもたちの「今」を考えるために

なぜ、不登校児童・生徒は増えていくのか。息苦しさを受け止められる地域へ。

### 日本の子どもたちの「今」

昨年、ユニセフ(国連児童基金)が発表した「子ども幸福度調査」でも、日本の子どもたちの「幸福度」は調査をした38か国中、精神的幸福度は37位という結果でした。一方、身体的幸福度では1位です。こうした結果を私たち大人はどのように受け止める必要があるのでしょうか。

### 新型コロナ禍で子どもたちの不安は高まっている

長期化するコロナ禍は子どもたちの心身にも大きく影響を与えています。国立成育医療研究センターの調査でも、子どもたち自身が感じている「生活の質」が低下していることが明らかになっています。

今年度の「子ども・若者白書」によれば、「自己肯定感」が高い子どもの数は以前に比べると若干増えているものの、「自己有用感」が低い子どもの数は減っていないことがわかります。また、「今の充実感」「将来への希望」についても持ちにくくなっている現状も見受けられます。



「子ども・若者白書」  
詳細は内閣府ホームページにて、  
ご覧いただけます。

### 多摩市が取り組んでいる「2050年の大人づくり」

多摩市では「子ども・子育て」を重点施策に掲げ、子育て支援や学校教育の充実に力を入れてきました。市長は平成25年の施政方針で「多摩市教育委員会が積極的に進めているESD教育、いわゆる『2050年の大人づくり』は、多摩市が子育てしやすく、未来を担う人材を育てていく都市であることを宣言した、未来への挑戦プログラム」だと述べています。

ESDは「持続可能な開発のための教育」であり、「より公正な社会を実現すること」をめざす教育実践のことです。

#### ●ESDが大切にしている「持続可能な社会づくり」を構成する6つの視点」

1. 多様性(いろいろある)
2. 相互性(関わりあっている)
3. 有限性(限りがある)
4. **公平性(一人一人大切に)**
5. 連携性(力合わせて)
6. 責任制(責任を持って)

しかし、子どもたちを取り巻く環境は、年々、厳しさが増しているように感じます。特に学校に足が向かない子どもたちの数(不登校児童・生徒)は、多摩市においても、増加傾向で、学年が上がるほどにその状況が深刻化している状態を見過ごすことができません。

ところで、改めて、「2050年の大人づくり」掲げるESDですが、過去の議会答弁において「2050年の大人づくりとは」…以下のように説明されています。

「今の多摩市の子どもたちを将来、大人になるまでに、身近にある環境や社会的な問題について多面的に考え、解決を図っていくことができる人材や、地域の文化を理解し、未来に継承発展させていくことができる人材として育成すること」

まさに、ESDが大切にしている6つの視点にに基づき、取組を進める必要がありますが、私は中でも「一人一人大切に」されることが重視されなければならぬと考えています。

#### ●ESDの視点に立った学習指導で身につけたい能力・態度

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する力
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

### 最も大切にすべきことは「一人一人大切に」を浸透させること

なぜなら、「一人一人大切に」がなされていることの実感があってこそ、子どもたちは自分自身の存在を認めることができ、「自己肯定感」あるいは「自己有用感」にもつながっていくと思うからです。

現在、12月議会での制定をめざし、「多摩市子ども・若者の権利を保障するとともに支援と活躍を推進する条例」の策定作業が進んでいますが、広く、多くの子どもたちの生の声も受け止め、まちづくりを進めることがますます必要になってきたと思います。

### 改めて「一人ひとりを受け止めることのできる」寛容な社会をつくりたい

残念ながら、公園や児童館、コミュニティセンターに集う子どもたちに対し、「子どもの声がうるさい」…騒音だという苦情も決して少なくありません。しかし、子どもたちの大切な地域の一員です。まずは子どもを疎外しない、排除しない地域環境づくりが必要ではないでしょうか。

その意味で、多摩市がこれまで進めてきた「2050年の大人づくり」の取組みもその在り方を改めて、検証し、学校だけでなく、地域も含め、一人ひとりの子どもたちのあるがままを受け止めることのできる「居場所・関わり合い」をつくるという視点から取組みを発展させることが求められるように思います。そのことを通じ、不登校問題解決の道筋にもつなげていきたいものです。

家庭、学校のみならず、未来の担い手である子どもたちの育ちを応援するために、大人社会は今、子どもたちへの向き合い方が問われていると考えています。

みんなが「深呼吸できるまち」にできるよう私たち一人一人がお互いに心がけたいですね。

解散総選挙があり、ニュースの配布がいつもより遅れてしまいました。次回は1月を予定しています。